

第2回カデットバル報告

日 時： 2016 年 11 月 18 日(金)15 時～17 時 30 分

場 所：大阪大学吹田キャンパス テクノアライアンス棟 2階セミナー室

テーマ：グローバル視点でみる博士人材のキャリアパス

(UC Berkeley での研究留学経験者と、長く米国に滞在し海外での事業経験をされて来た阪大の特任教員の方から、米国での研究生活、博士課程の研究者や先生の考え方や日常についてお話を伺う)

講 師：東京大学大学院 工学系研究科 加藤公彦特任研究員

味の素(株) フロンティア研究所 吉田エリカ研究員

大阪大学 海外拠点本部 北米センター長 樺澤 哲 教授

参加者：カデット生 12 名、他リーディング（生体統御、超域）から 3 名

冒頭、樺澤先生から世界の博士人材の研究環境や競争環境、支援環境の実態を紹介していただき、今後のキャリア形成の一助とする今回のバルのねらいと、課題提起がありました。その後、東京大学の加藤先生、味の素(株)吉田研究員より、

- ・米国での研究生活を決断した背景とキッカケ
- ・どうして UC Berkeley だったのか
- ・UCB での研究生活の実際とチャレンジして得られたもの
- ・米国に行ってみて分かった事
- ・日米の研究環境の違い
- ・米国での研究生活を踏まえたアドバイス

といった視点でお話をいただきながら、交流を進めました。お二人とも履修生と世代が近いという事もあり、双方忌憚のない意見交換となりました。最後はジェンダーの問題についても話が広がり、充実した 2 時間半でした。参加した履修生からは下記の感想がよせられています。

『留学生やいい大学を出た人の印象よりも、自分との戦いや悩みの中で勝利した人の印象がありました。私も頑張ります！』

『世界トップクラスの研究機関 UC バークレーにおける研究室での生活を日本人の口から聞けて良かった。講演を拝聴するまで海外でのキャリアパスを全く考えていなかったが、非常に魅力的に感じた。これを機に候補の一つとして考えてみたいと思う』。

『自分は海外の大学では日本の大学でありがちな否定的なスタンスではなく、何事においても肯定的な意見が得られることが多いという印象を抱いていました。そのため今回のお話で聞いた海外での研究では軽い気持ちでは研究をスタートすることが無く、入念に下調べを行うということには大変驚きました。これは決して否定的であるわけではなく、事前の下調べが確かな研究実績につながっており、自分自身の研究にもこの慎重さ、綿密な計画が必要であると感じました。』

『講演で一番印象に残ったのは、留学先の先生とのコネクションの作り方です。加藤先生、吉田先生ともに何年も前からから留学先の先生に目星をつけていたのに驚きました。

私もこれから留学する身として国際学会などに行く際は意識していなければと思いました。また、このような講演があるならアメリカ以外に留学された方の話も聞いてみたいと思いました。』

『今回実際海外に留学したことがある方の話を直接聞けたことで、これまで漠然としていた留学のイメージがはっきりしてきた感じがします。研究を進めるという観点だけでは、もしかしたら日本にいたほうが実験環境、生活環境の面で楽に進めることができる可能性も充分にあると思うのですが、日本人とアメリカ人の考え方の違い、留学をした際の苦労した点も教えていただけたので留学の魅力が少し理解出来たように思いました。』

『アメリカではドクターが評価されていて、自由に職場を移動できる環境はすごくうらやましく思うし、日本の社会環境も改善されて留学にも行きやすい環境になってほしいと思いました。』

『加藤先生のお話ですが、自分の仕事の進捗状況を数値化するという部分がとても印象に残りました。これは研究のゴールが分かっていないとできないことだと思いますし、自分自身も普段、あまりできていない部分だと感じました。日米の研究の違いを理解し、お互いのいいところを組み合わせればこれから仕事に向き合えたらと感じました。』

『吉田先生のお話では、自分の体験をもとに写真などを使って丁寧に話をされていたので、聞いていてすごくイメージしやすかったです。日本人とアメリカ人が同じ出来なら、語学力の差でアメリカ人が優位だとのことでしたが、私はそれも一因ではあると思いますが、彼らは日本人よりも自分の研究の売り方や意義づけをすることに慣れているのかなと思いました。日本では、学部生が研究室に行って自分をアピールすることはなかなかないので、自分や自分の研究を売り込む機会が少ないように感じます。大変参考になりました。』

平成28年度 第2回 11月18日(金)
Cadet Bar

グローバル視点でリレートーク&ディスカッション

味の素(株) フロンティア研究所 先端微生物機能研究G
吉田エリカ 研究員
東京大学大学院工学系研究科電気系専攻
加藤公彦 特任研究員
大阪大学 北米センター
樺澤 哲 所長

UCバークレイ校ボストン経験者・海外駐在マネジャーが語る
日本に居ては分からない博士人材の競争環境
雇用機会やジェンダーの課題

★3名の共通項目
カリフォルニア大学 バークレイ校
★3名に共通しない項目
企業研究者
アカデミックリサーチ
大学活動の海外展開マネージャ
※普通ならば金銭的このない方が
サンフランシスコで電気投資
「博士課程に学ぶ皆さんがグローバルに
活躍するために」という思いを語ります

終了後、フリードリンク/スナックを準備して懇談の時間を設けております
皆様の参加をお待ちしております

11月18日(金) 15時～17時
大阪大学 吹田キャンパス
テクノアライアンス棟2Fセミナー室

IMSC INTERNATIONAL MATERIALS SCIENCE CENTER



会場の様子



東京大学大学院の加藤先生



味の素(株)の吉田研究員



講師の先生を交えて集合写真